

中国における健康格差問題に対して、幼少期の社会経済的地位(socioeconomic status: 以下, SES と略する)が、生涯の健康状態に与える影響に注目し、「成年期の主観的健康感(self-rated health: 以下, SRH と略する)は、思春期における SES と関連があるか」、「仮に関連性があるとするならば、どのような経路で、思春期の SES が成年期の健康状態に影響を与えるのか」という 2 つのリサーチクエスションについて、実証分析を行った。中国人民大学データ・調査センター(National Survey Research Center at Renmin University of China, NSRC)によって、2010 年に中国全国を対象として実施された「中国総合社会調査」(General Social Surveys 2010) の個票を用いた。標本数は、8,686(男性が 4,453(50.68%), 女性が 4,333(49.32%))である。本稿では、投入する変数によって 2 段階に分け、順序ロジスティック回帰(Ordinal Logistic Regression)による分析を行った。第 1 段階では、先行研究との比較をすべく、尹、郭(2011)と同じ変数を用い、さらに、男女別、年齢別(45 歳で分層)推定を行った。第 2 段階では、本稿独自に、「14 歳時点の階層帰属意識」、「14 歳時点で文革を経験したかどうか」などの幼少期の SES を表す変数を追加し、推定を行った。思春期における SES と成年期 SRH の間には、統計学的に有意な強い関連性があることが確認された。また、本稿で得た結果から、思春期の SES が成年期の SRH に影響を与える経路は単純ではなく、両親や本人のさまざまな SES 指標を通じて、間接的・直接的に、複雑な経路を通じて、現在の SRH に影響を与えていることが明らかになった。本稿の推定から得られた結果は、主に、次の 6 点にまとめられる。①本人の諸属性を統制しても、両親の教育水準が高いほど、成年期の SRH が良いという傾向がある；②両親の職業階層については、母が有職であることが、成年後の SRH にマイナスの効果がある；③14 歳時点の主観的な階層帰属意識が高ければ高いほど、成年期の SRH にプラスな影響を与える；④14 歳時点までの文化大革命の経験は、成人後の SRH に対して間接的にマイナスの影響を与えている；⑤父が共産党員であると、45 歳または 48 歳未満の青年・壮年では本人の SRH が改善する傾向があるのに対して、45 歳または 48 歳以上の中高年齢層では、本人の SRH が低下する傾向がある。以上の推定結果から、中国社会における健康格差を改善するためには、長期的視点から、公的教育を充実し、教育コストを低下させ、国民の教育水準を向上することが必要であると考えられる。また、職業間の格差による健康格差に対して、中国政府は「社会資源の再分配」、「低所得者に職業技能訓練の提供」、「最低賃金の引き上げ」などに力を入れるべきである。最後に、国民福祉の面から、中国政府は、医療衛生に対する財政支出投入を増加し、国民皆保険制度を整備 することも必要であるかもしれない。